

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 5年 2月 28日

事業所名 グリーていんぐ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	部屋によって用途を分けて支援している。	備品の保管場所などを決定し、利用者にも理解を求めている。
	2	職員の配置数は適切である	7	0	支援内容や利用人数に応じて増員などの手配を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	活動スペースはバリアフリー化している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	来所前に清掃を完了させている	常に迅速に対応していけるようにする
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2	定期的に会議を開催し、認識を共有している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	送迎時等に保護者のニーズに常に注視している	保護者のニーズに関して、さらに反映していけるように取り組む
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	事業所内にて掲示している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7		今後そのような機会を設けていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3	定期的に外部研修に参加している	非正職員にも積極的に参加してもらえるように促していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	送迎時にその日の様子を伝え情報の共有をしている	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	グループ内で統一されたアセスメントシートを使用している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	3		設定しているものの、更なるガイドラインへの深い理解や探求のためにグループ内での勉強会も取り入れていく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	個別支援の時間を設けている	モニタリングを含め更に充実させていく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	定期ミーティングで職員を考案している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	グループ内で意見交換を行いながら必要に応じ変更している	保護者からのリスニングを行い取り入れていく
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	2	相談支援員との連携、アセスメントの活用	集団活動を主になっている中で個別支援の内容も精査していく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	指導内容に関しては朝礼等にて共有	職員が集まる中で皆がさらに発言できる環境を心掛ける
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	終礼時に発表していく事で共有している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	日々の支援の内容をケース記録のみならず終礼時にも共有している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	2	定期的な見直しをおこなっている	必要に応じて短期間内においてもミーティング内で見直しを行う
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	3	普段から担当を決める事で円滑に議題提供を行う	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	4	定期的なケース会議などにも出席している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	7		現状当該児童はいない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	7		現状当該児童はいない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4		一部ではあるが、更なる連携を図っていく必要がある
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4		移行支援に関しては今後積極的に検討していく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	4	定期的な研修に参加している	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3	地域の公園や催しに参加している	保育園などとの交流は今後の課題
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	7		今後参加していけるよう情報収集をしていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	送迎時のみならず常に情報交換ができるよう周知している	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	5		家族支援プログラムの勉強会もさらに行い活用していく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	見学时などに伝えている	随時質問を受け付ける体制を整えていく

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	計画書を元に情報交換し同意を得ている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2	研修の内容に沿った内容や正しい知識を必要に応じてアドバイスしている	職員の知識向上も引き続き行う
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7		今後、保護者の交流できる環境を今後創造していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	連絡体制の確立をおこなっている	非常勤から責任者まで共有して対応できるようにしていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0		定期的に発行しているがさらに興味付けしていけるような内容を精査していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	鍵付きの書庫にて保管し鍵は限られた人間のみの所有にしている	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	絵カードなど視覚アプローチを心掛けている	コミュニケーションツールの増大を目指す
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7		地域の方に向けた取り組みを行い、周知していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	定期的に会議や外部研修にて勉強会を行っている	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	毎月の行事にも取り入れている	多種機関との連携ができるような体制を目指していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	契約時に確認し、周知徹底している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0		保護者の申告によるものでも、根拠を明示して安全に食事ができる環境を考慮し続ける
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	毎日の必要書類とし、全職員で共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	定期的に会議議題に挙げて取り組んでいる	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	万が一に必要な可能性のある児童がいる場合には、説明と同意を行い必要最低限で行う。	身体拘束について常に周知していく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。